

科目名	ガイドヘルパー講座 I						
Course Name	Course of Study on Mobility Guide I						
年次	2年	期別	後期	単位数	2	授業形態	講義
担当者氏名	大熊信成						
連絡先(質問等)	福祉棟 3F 研究室か、メールで対応。						
必修/選択	選択(ガイドヘルパーユニット必修)						
関連 DP	DP2、DP3、DP4						
授業の概要と到達目標	<p>障害者福祉に係る制度およびサービス、視覚障害・知的障害・全身性障害に関する疾病およびその生活障害等について学習する。また、障害児者の居宅介護について理解し、移動介護従業者に必要な基礎知識を修得する。</p> <p>①移動介護従業者として利用者に関わる問題意識を持つことができるようにする。 ②利用者の様々なニーズを把握し、それを説明できるようにする。 ③様々な障害原因とその障害に応じたサービスを展開することができるようにする。 ④外出時における移動に関する知識及び技術を修得することができるようにする。 ⑤移動介護従事者として、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を身につけることができるようにする。</p>						
授業の方法	基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。レポート課題を実施し、知識の定着を図る。						
学習成果	L01						
	L02	移動介護従事者に関する対人援助活動の専門職としての知識及び具体的な技術を学び、利用者に関わる問題意識を持つことができる。					
	L03	移動に関する知識及び技術を習得し、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養えることができる。					
	L04						
課題に対するフィードバック	毎回の授業でリアクションペーパーを実施する。リアクションペーパーは振り返りを行い全員でシェアをする。また試験対策を行い、授業内で解答・解説を行う。						
教科書/参考図書	①ガイドヘルパー研修テキスト 全身性障害編 中央法規出版 ②強度行動障害支援者養成研修[基礎研修・実践研修]テキスト 行動障害のある人の「暮らし」を支える 中央法規出版 ・その他、適宜資料を配布。						
履修上の留意点やルール等	一部視聴覚教材を使用し、内容をレポートで確認する。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにすること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。ガイドヘルパー講座 I だけの履修は認められない。ガイドヘルパー講座 II、III も必ず履修すること。事前・事後学習に費やすべき時間の目安は各回 180 分とする。						
担当教員の実務経験							

成績評価の方法と基準					
評価の領域	評価基準	学習成果の割合			
		L01	L02	L03	L04
授業参加態度	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。これらを総合的に判断する。		20		
レポート/作品	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価である S は意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。		20		
発表					
小テスト					

試験	論述、選択記述式の定期試験を行い、評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。			60	
その他					
合 計				40	60

回数		授業計画
1	授業内容	ガイダンス、他科目との統合について(30 分)・障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義① (60 分)
	事前・事後学習	障害者福祉に係る制度及びサービスについてテキストを参照にしてまとめること。
2	授業内容	障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義②(90 分)
	事前・事後学習	障害者福祉に係る制度及びサービスについてテキストを参照にしてまとめること。
3	授業内容	障害者福祉に係る制度及びサービスに関する講義③(30 分)・身体障害者居宅介護等に関する講義①(60 分)
	事前・事後学習	障害者福祉に係る制度及びサービスについてレポートを記述すること。レポートは提出する。
4	授業内容	身体障害者居宅介護等に関する講義②(90 分)
	事前・事後学習	身体障害者居宅介護等についてテキストを参照にしてまとめること。
5	授業内容	身体障害者居宅介護等に関する講義③(30 分)・全身性障害者の疾病、障害等に関する講義①(60 分)
	事前・事後学習	全身性障害についてテキストを参照にしてまとめること。
6	授業内容	全身性障害者の疾病、障害等に関する講義②(60 分)・障害者の心理に関する講義①(30 分)
	事前・事後学習	障害者の心理についてテキストを参照にしてまとめること。
7	授業内容	障害者の心理に関する講義②(30 分)・強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義①(60 分)
	事前・事後学習	強度行動障害についてテキストを参照にしてまとめること。
8	授業内容	強度行動障害がある者の基本的理解に関する講義②(90 分)
	事前・事後学習	強度障害についてテキストを参照にしてまとめること。
9	授業内容	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義①(90 分)
	事前・事後学習	強度行動障害の制度及び支援についてテキストを参照にしてまとめること。
10	授業内容	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義②(90 分)
	事前・事後学習	強度行動障害の制度及び支援についてテキストを参照にしてまとめること。
11	授業内容	強度行動障害に関する制度及び支援技術の基礎的な知識に関する講義③(30 分)・強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義①(60 分)
	事前・事後学習	強度行動障害の制度及び支援についてテキストを参照にしてまとめること。
12	授業内容	強度行動障害がある者へのチーム支援に関する講義②(60 分)・基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習①(30 分)
	事前・事後学習	チーム支援の意義についてノートにまとめること。
13	授業内容	基本的な情報収集と記録等の共有に関する演習②(30 分)・行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習①(60 分)
	事前・事後学習	コミュニケーション技術についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
14	授業内容	行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習②(90 分)
	事前・事後学習	コミュニケーション技術についてテキストを参照にしてノートにまとめること。
15	授業内容	行動障害がある者の固有のコミュニケーションの理解に関する演習③(30 分)・危機対応と虐待防止に関する演習(60 分)
	事前・事後学習	コミュニケーション技術及び虐待防止についてテキストを参照にしてノートにまとめるこ

		と。試験対策を行うこと。
--	--	--------------